

京都市立病院「登録医(かかりつけ医)」のご案内



登録医一覧 院内掲示

京都市立病院は、地域医療の第一線を担われている先生方との連携を深め、地域全体でより安心できる医療を提供してまいりたいと考えます。

地域の健康を共に支えていくために、是非とも、京都市立病院の登録医(かかりつけ医)へのご登録をお願いいたします。

登録医(かかりつけ医)についてご不明な点等ございましたら、地域医療連携室までお問い合わせください。

お問い合わせ 京都市立病院 地域医療連携室
TEL:075-311-5311(内線2115) FAX:075-311-9862(専用)

登録医(かかりつけ医)制度のメリット

- ①かかりつけ医を希望される患者様には、当院の登録医を優先的にご案内(逆紹介)させていただきます
- ②当院の開放型病床及び高度医療機器等をご利用いただき、共同診療が可能です
- ③当院の図書室等、院内施設をご利用いただけます
- ④当院主催の地域医療連携カンファレンス及び地域医療フォーラム等のご案内を送らせていただきます
- ⑤登録医(医療機関)名を院内で掲示し、当院のホームページに掲載します
- ⑥当院ホームページ用バナー広告、外来待合室のモニタースクリーン広告に申し込みます(有料)

紹介患者様診療・検査事前予約ご利用のご案内

医療機関用 外来診療・検査事前予約 FAX予約

当院では、待ち時間を短く患者様が円滑に診療・検査を受けられるように、病院及び診療所の先生から『事前予約』をお受けしております。

●ご利用につきましては、以下の手続きへのご協力をお願い致します。

- ①「紹介患者様事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域医療連携室までFAXで送信してください。
- ②直ちに、予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで送信します。ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡致します。
- ③患者様に以下をお渡しください。

- ・予約受付票
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・フィルム等

④ご来院時、患者様には以下をお持ちいただけます。

- 先生から受取ったもの
 - ・予約受付票
 - ・診療情報提供書(紹介状)
 - ・フィルム等
- 別に必要なもの
 - ・健康保険証
 - ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
 - ・診察券

予約受付先

- 京都市立病院地域医療連携室
TEL (075)311-5311(代)
FAX (075)311-9862(専用)
 - 事前予約医療機関専用電話(地域医療連携室直通)
(075)311-6348
- 事前予約受付時間(日曜・祝日を除く)
平日/8:30~20:00(木曜日は17:00まで)
土曜日/8:30~12:00
FAXは、24時間お受けしています。
- 地域医療連携相談業務
平日/8:30~17:00(月曜日~金曜日)

患者様用 紹介患者様事前予約センター 電話予約

当院では、先生からの紹介状があれば、患者様からのお電話で、ご自身のスケジュールに合わせた予約をお取りいただくことができます。 ※担当医師の指定、検査の予約はできません。

●ご利用につきましては、以下の手続きへのご協力をお願い致します。

①お電話をされる前に、患者様には以下をお手元にご用意いただけます。

- ・事前予約申込票(必要事項記入済みのもの)
- ・診療情報提供書(紹介状)
- ・診察券 ※初診でもご予約可能です。

②患者様から「事前予約センター」へお電話いただけます。

専用電話番号 **(075)311-6361**

受付時間/月~金(9:00~17:00)

※土・日・祝・年末年始(12/29~1/3)を除く

●ご予約は前日17:00まで受付しております。

▶電話予約時に確認させていただく内容

- ・患者様のお名前(漢字・ヨミガナ)
- ・生年月日・性別
- ・ご連絡先(電話番号等)
- ・紹介元医療機関名・予約診療科

③ご来院時、患者様には以下をお持ちいただけます。

- 先生から受け取ったもの
 - ・事前予約受付票(必要事項記入済みのもの)
 - ・診療情報提供書(紹介状)
 - ・フィルム等
- 別に必要なもの
 - ・健康保険証
 - ・お薬手帳又はお薬のわかるもの
 - ・診察券

専用の申込用紙は、京都市立病院のホームページからダウンロードが可能ですので、是非ご利用ください。



地方独立行政法人 京都市立病院機構

京都市立病院
地域医療連携室

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-2

TEL 075-311-5311(内線2115) FAX 075-311-9862

事前予約医療機関専用電話(地域医療連携室直通) 075-311-6348

http://www.kch-org.jp/

京都市立病院

連携だより

vol.15
平成27年1月

- 皮膚科の取り組み
- 薬剤師外来について
- 当院における「禁煙教室」の取り組み
- 京都市立病院「登録医(かかりつけ医)」のご案内
- 紹介患者様診療・検査事前予約ご利用のご案内

京都市立病院機構理念

京都市立病院機構は

- 市民のいのちと健康を守ります
- 患者中心の最適な医療を提供します
- 地域と一体となって健康長寿のまちづくりに貢献します

京都市立病院憲章

- 1 質の高い安全な医療を提供するとともに、地域の医療水準の向上に貢献します。
- 2 患者の権利と尊厳を尊重し、心のもった医療を提供します。
- 3 救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに、地域住民の健康の維持・増進に貢献します。
- 4 病院運営に参画する事業者等とのパートナーシップを強め、健全な病院経営に努めます。
- 5 職員の育成に努め、職員が自信と誇りを持ち、全力で医療に従事できる職場環境を作ります。

皮膚科 の取り組み

地域の 中核的皮膚科 診療機関を 目指して



皮膚科部長
小西 啓介

当科の診療理念

当科では皮膚科疾患全般を対象に、可能な限りその原因の追求を根本理念として診療しています。当科の目標は皮膚アレルギー疾患、皮膚感染症、皮膚外科の3つに置いています。それは、この3つをしっかりと診療すれば、皮膚疾患のほとんどをカバーできると考えるからです。

当科における皮膚アレルギー性疾患診療

特に力を入れている疾患はアレルギー性疾患です。薬疹、接触皮膚炎については、パッチテスト、プリックテスト、皮内テストなどを駆使して原因検索を積極的に行っています。年間150例の皮膚テストを実施しています。接触皮膚炎についてはジャパニーズスタンダード、金属シリーズを検査できる体制を整えています。薬疹では毎年10例ほどの原因薬が特定できています。薬疹における皮膚テストやDLSTの陽性率は高くても50%までのため、最終的な薬疹の診断には内服チャレンジテストが必要な場合が多いです。当科ではI型アレルギーのチャレンジテストは入院のうえ検査を行っています。それ以外は主として外来で一剤ずつ漸増的に内服チャレンジテストを行っています。また薬疹の治療においては早期に薬剤の

● 金属アレルギーパッチテスト48時間後判定



Japanese Standard
1 cobalt chloride
5 Nickel sulfate

金属シリーズ：
14 硫酸ニッケル
15 塩化コバルト

ICDRG:+ ~ ++

中止、変更が必要な場合が多く、入院のうえ他科と連携して治療を行うこともしばしばあります。薬疹を起こさない薬剤はなく、長期内服していたものでも薬疹を起こすことがありますので、少しでも薬疹の可能性がありましたら、いつでもご紹介いただければ幸いです。その際はジェネリック薬剤の増加もあり、実際に投与されていた薬剤が必要になりますので、薬剤のご提供をご高配ください。

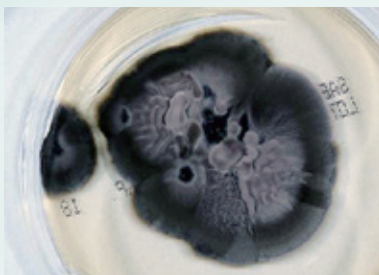
当科における皮膚感染症診療

皮膚感染症についても細菌、抗酸菌、真菌などの原因菌の確定に重点を置き診療しています。これまでに手掌の黒癬、爪アスペルギルス症など京都初の症例を報告してきました。また当院はAIDSの拠点病院であり、皮膚症状からHIV感染症を発見したり、HIV感染症患者さんの皮膚疾患を治療することも多いです。また忘れてならない疾患として梅毒や皮膚結核もあります。当科では梅毒性アンギーナ、尋常性狼瘡をはじめ、珍しい病変の診断・治療歴があります。原因のわからない皮膚症状については徹底的な検査を心がけています。いつでもご相談ください。

● 黒癬の臨床像および培養所見



◀ 手掌の黒色斑



黒色湿性の酵母様集落 ▶

当科における皮膚外科診療

皮膚外科は、皮膚腫瘍切除術を中心に、植皮術まで手がけています。ティールを使用した網状分層植皮法を考案し、植皮法の手技の簡素化と時間短縮を図りました。最近では熱傷はもとより乳癌手術後の皮膚欠損への植皮にもこの方法を適応しています。京都府立医科大学形成外科から沼尻敏明講師の応援をお願いして皮弁などの手術もこなし、昨年度は470件の手術を施行しました。年間の病理検査も手術症例を含めて昨年は1,036件実施しました。皮膚科疾患診断のためには病理検討が最も重要であると考えています。また難治性皮膚潰瘍の治療では局所陰圧閉鎖処置も施行しています。

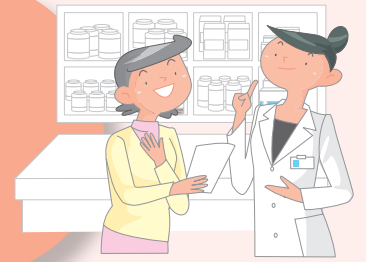
当科の入院診療

昨年は328名の入院患者さんを収容しました。平均在院日数が10.4日でした。特に夏場はめまぐるしく入退院があります。当科では带状疱疹、蜂窩織炎、丹毒などはクリニカルパスを適応しています。プリックテストや日帰り手術などは1日入院も可能です。また皮膚感染症・中毒疹などの急性期の診療では入院を必要とする場合があります。当科では乾癬への生物学的製剤の投与も承認施設として積極的に施行しています。いつでもご相談ください。今後とも京都市立病院皮膚科をよろしくお願ひ申し上げます。



薬剤師外来について

薬剤科では、外来通院患者のアドヒアランス向上を目的として、今年の10月から薬剤師外来を開設いたしました。



アドヒアランスとは

患者が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けることを意味します。今まで「医療者の指示に患者がどの程度従うか」というコンプライアンス概念のもと患者を評価してきました。薬の服用ができない「ノンコンプライアンス」は医療者側の評価に偏り、患者側に問題があると強調されていました。しかし、服

薬を妨げる因子は患者側因子、医療者側因子、患者・医療者双方に関わるものがあります。これらの要因を総合的にとらえて患者自身の治療への積極的な参加(執着心:adherence)が治療成功の鍵であると考え、「患者は治療に従順であるべき」という患者像から脱するアドヒアランス概念が生まれました。



アドヒアランス向上による医療効果について

アドヒアランス向上による医療効果についてはいくつか報告があります。なかでも慢性骨髄性白血病(CML)の治療に用いられるbcr-ablチロシンキナーゼ阻害薬(以下TKI)のイマチニブは、アドヒアランスにより予後に大きな影響を及ぼし、アドヒアランスの向上が医療費を

抑制したとの報告があります(図1、図2)。

これらのことから当科では、まず慢性骨髄性白血病のTKI服用患者を対象に薬剤師外来を開始することといたしました。

図1 イマチニブ服用率別の治療効果

Marin D et al: J Clin Oncol 28,2010:2381-2388.

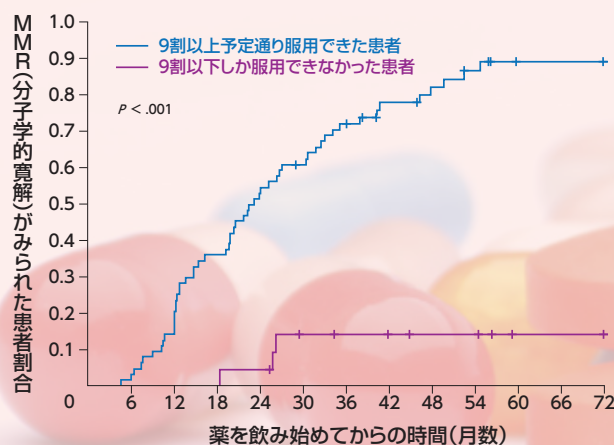
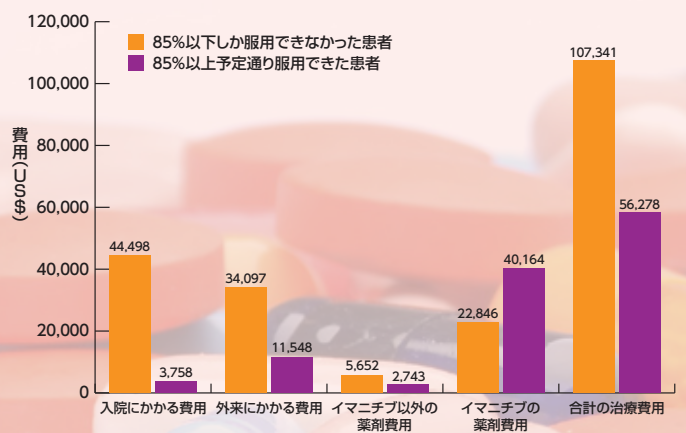


図2 イマチニブ服用率別の治療費用

Elias J;Hematol.87:687-691,2012



■ 薬剤師外来の流れ

当該科受診日に、採血から診察までの待ち時間を利用して実施しています。原則としては医師の診察前に面談しますが、インフォームドコンセントが未実施の場合などは診察後に行うこともあります。外来担当薬剤師が服薬状況や残薬、副作用の発現状況、相互作用のある薬剤の有無等を確認の上、必要に応じて服薬指導や処方変更等の提案を行います。聴取した情報を電子カルテに記載するとともにお薬手帳にも同じ内容を記した薬歴シール(図3)を貼付しています。



患者氏名	京都 太郎 様	年齢	81歳0ヶ月	性別	男
面談日	2014/1/1	処方内容	グリベック()	錠	分1
<グリベック> ★残薬の確認 <input type="checkbox"/> 残薬あり 理由() <input checked="" type="checkbox"/> 残薬なし ★服用方法の確認 <input type="checkbox"/> 1日1回食後 AM 9 時 ★副作用の確認 <input type="checkbox"/> 骨髄抑制 (特に投与開始1ヶ月間) WBC: 3250 Hb: 13.0 Plt: 21.0 <input type="checkbox"/> 体液貯留 (呼吸困難・咳・胸の痛み/むくみ・体重増加) <input type="checkbox"/> 悪心・嘔吐 (好発時期: 0~1週目) <input checked="" type="checkbox"/> 下痢 (好発時期: 1~2週目) <input type="checkbox"/> 発疹 (好発時期: 1~4週目) 以下は頻度少ない。骨髄抑制・肝機能で減薬/休薬基準あり <input type="checkbox"/> 肝障害 (好発時期: 2~4週目) <input type="checkbox"/> 頭痛 <input type="checkbox"/> 咳・息切れ(間質性肺炎) <input type="checkbox"/> 胸痛・動悸(QT延長) <input type="checkbox"/> 筋痙攣 ★相互作用の確認 <input checked="" type="checkbox"/> 相互作用のある薬剤内服中 (ワーファリン) <input type="checkbox"/> 相互作用のある薬剤なし <input type="checkbox"/> 内服なし					
面談内容・伝達事項など 飲み忘れなく内服できている。 副作用症状として下痢が認められるが、止瀉剤にて対応。 ワーファリンのINR問題なし。					
京都市立病院 薬剤科 薬剤師					印

図3 薬歴シール



薬剤師外来の今後について

対象患者を順次拡大していく予定です。院外の病院、診療所、保険調剤薬局の先生方とお薬手帳を通して情報

共有を図り患者にとってよりよい医療の提供に繋がってきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

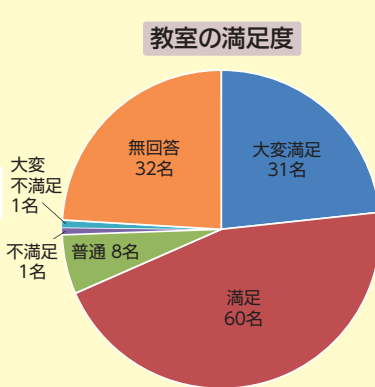
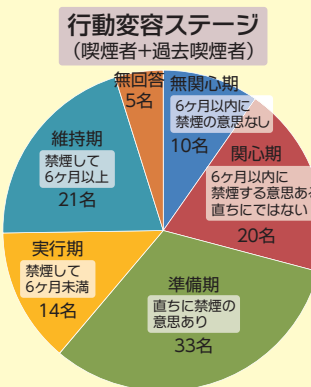
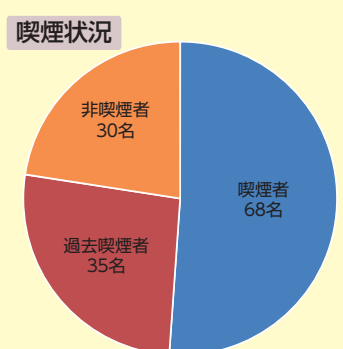
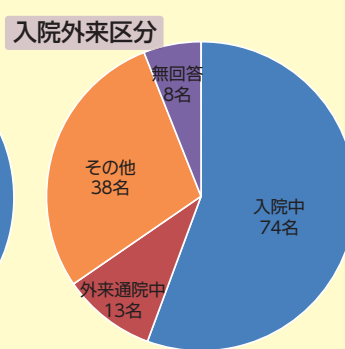
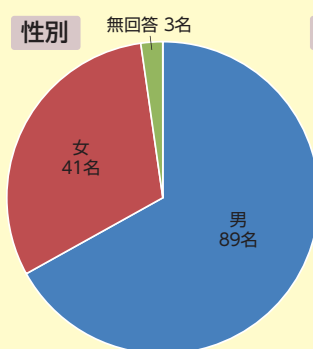
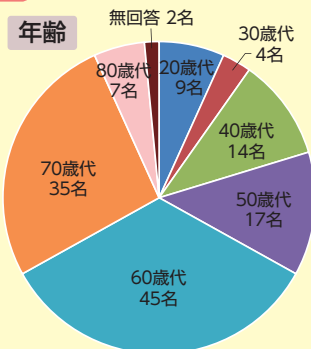
喫煙はがんや心血管疾患、呼吸器疾患をはじめ、全身に健康被害を及ぼし、予防可能な最大の死因です。国のがん対策推進基本計画には、平成34年までに喫煙率を12%まで減少させるとの数値目標が定められています。この達成のためには、禁煙希望者が実際に禁煙できるよう具体的方法を提示し、必要に応じて禁煙外来受診を推奨することが重要です。

そこで、当院では、平成25年11月より「禁煙教室～吸う人も、吸わない人も知って得するタバコの不思議～」を開始しております。タバコ煙の成分やニコチン依存症のしくみ、受動喫煙を含めたタバコによる健康被害、禁煙のコツ、世界と日本のタバコ対策の比較など、様々な視点からタバコの話をしています。実際に呼気中の一酸化炭素濃度測定をしたり、タール模型などの展示も行っております。禁煙希望者には医師、看護師が具体的なアドバイスを行うほか、その場で当院の禁煙外来を予約することができます。どなたでも参加可能ですので、禁煙のきっかけづくりとしてご活用いただきますよう宜しくお願いいたします。この度、当院での取り組みを検討しましたので報告させていただきます。当院での一年間の取り組みをご覧ください。

結果

禁煙教室の参加者は、平成25年11月から平成26年10月までの全23回で、計190名であった。

そのうちアンケートを回収できた133名について集計を行った。



禁煙教室受講後の禁煙外来受診者

2013年11月～2014年10月で計10名

- 3名は3ヶ月禁煙達成
- 1名は他院入院により中断
- 1名は5回目受診目前に再喫煙（覚醒剤後遺症、IFN治療によるうつ症状あり）
- 5名は現在外来通院中であり、うち4名は禁煙継続できている

まとめ

- 禁煙教室は、喫煙の有無や行動変容ステージに関わらず、総じて満足度が高かった。特に、準備期や実行期にある参加者が多く、禁煙の達成もしくは継続につながった症例が複数あり、禁煙教室には一定の効果が認められた。
- 市民しんぶんなどで開催を知った一般市民の参加も予想以上に多く、保健福祉行政への協力という面でも役割を果たす可能性がある。
- 今後の課題として、入院時に喫煙している患者には

必ず禁煙教室の受講をすすめるよう、病院スタッフへの周知を徹底する必要がある。無関心期・関心期の喫煙者や外来患者の参加を増やすためには、個々の状況に関連付けた積極的な働きかけが重要であり、スタッフの意識向上と協力が欠かせない。

- 参加型の部分を増やすなど禁煙教室の内容を充実させると共に、運営スタッフを募り今後も継続していける仕組みを整えていきたい。

- 毎週火・水曜日 午後2時～3時30分
- 呼吸器内科外来（本館2F）

受診 受付時間／午前8時30分～午後5時
 申込 来院 医事課(2番窓口) 電話 075(311)5311(内線2122)
 費用 保険診療(ただし、保険診療適用とならない場合は実費負担)

保険適用の対象者 ▼下記の全ての条件をみたすもの

1. 直ちに禁煙しようと考えていること
2. ニコチン依存症に係るスクリーニングテストが5点以上であること
3. プリンクマン指数(1日の喫煙本数×喫煙年数)が200以上であること
4. 禁煙治療を受けることを文書により同意していること